
東方洪水域

葬炎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方洪水域

【Nコード】

N2543Y

【作者名】

葬炎

【あらすじ】

「あゝ、暇だ」と、ぶらぶらしていたら
「じゃあちよつとこつちにい」 「えっ」と呼ばれて気づいたら何も
もない空間だった。。。ようするにテンプレで東方の世界に逝
きます 「じゃねーよ！あんな世界じゃ3秒で死んじゃうわっ！！」
・・・がんばって ということ一般の高校生が東方にinn！

魔王（神）からは逃げられない！（前書き）

処女作です！

誤字脱字は教えてくださると嬉しいです。

駄文です。

魔王（神）からは逃げられない！

「あゝ、暇だゝ」

と、だれてるバカが一匹

「バカっていうなー！！」

だってバカじゃんw

「あーっもう！！」

暇なバカはあまりにも暇なために
友達なんか存在しない街を歩いて
いた。

「家に帰っても勉強しろって言わ
れるだけだしなー、帰りたく無い
なー」

”じゃあちよっところちにい”

「えっ誰？どこd(って何この光の
玉は！元気 っばいな！こっちく
んな！！」

”逃げんなっ！”

「無理っ！ちよっこっちくんなっ

て！」

” よろしい、ならばスピードアップ
だ！！！”

「 えっ早くなつたし！逃げ切れな
うぼあー！ー！！！」

「じいじは誰？私は何じいじ？」（前書き）

感想をもらえると泣いてよろこびます！

「ここは誰？私はどこ？」

「いったいなんだったんだあの玉は」

” ようやく気がついたか ”

「あんた誰？」

” ふん、聞いて驚く「まあ誰でもいいけどここはどこ？」俺の話を聞けっ！ ”

「じゃあ聞いてやんよ。」

”（なんで上から目線なんだ？）まあいい、俺は神だっ！！ ”

「あっそ」

” あれ？ ”

「で、俺はどうなの？」

” いやいやいや！反応薄いな！ ”

「だって信じて無いからただの誘拐犯としか思っただけだし」

”いや本当に神だからっ!”

「ふーん、で？俺はどうなんの？」

”（もういいやorz）お前に転生をして
もらっ!”

「わかった〜」

”（・・・もう突っ込まんぞ）じゃあ逝ってこい!”

「あゝ、下がパカッとあいて穴があいたよ。テンプレ乙!じゃね〜
ノシ」

”・・・ちょっと調子がくるったな、まあもう会うことは無いだろ
う”

神と主人公の会話はこれにて終了。しかし神は再会フラグがたっているのに気づいていなかった!!

”あ・・・どこの世界か言ってるねえや、まあなんとかなんだろう、じ
ゃあお詫びになんか能力つけといてやるか”

・・・主人公はどうなんのやら、それは誰にもわからない。

「ここは誰？私はどこ？」（後書き）

そして作者にもわからないw

やはり上手く書けない、ランキング上位の作者さんはマジで尊敬します！

この神の再登場はもう無いと思います。

気がつけば森の中（前書き）

駄文！そしてぐたぐたw

気がつけば森の中

ギヤー・・・ギヤー・・・

「あー、よく寝たー！」

どうやら主人公は寝ていたようだ

「あれ？さっきまでいたうざいぐらいのイケメンは？」

・・・神はイケメンだったらしい

「なんか話してたけど眠くてほとんど聞き流してたしなー」

気持ち悪いくらい神の話に無反応だったのは寝たくて話をぱぱっと終わらそうとしたからみたいだ

「ふあゝ、つてにじどにょ？」

「なんか話をちゃんと聞いてたほうがよかったかな？でももうどうしようもないし、ペラッ、ん？紙？」

「これを読んだらということは無事についたようだな、今お前がいるのは東方Projectというゲームの昔の世界だ、

「はあっ！東方の世界かよ！そんな世界じゃ俺すぐピチュツちゃうじゃんー！」

「だがすぐに死んでしまうところ・・・もといかわいそうなため

お前に特典を与える、

「まあ・・・それならなんとかかなるかな？」

・1つ目はお前が死のうと思わないかぎり死なない不老不死、

「うあw最初からだいたいいいのがでたなw」

・2つ目はお前に合う能力、

「おおっ！やっぱり東方といたら能力がないとやってらんないっしょー！」

・これは後で座禅をくむなりなんなりして確かめてくれ、俺が決めたいわけじゃないから弱くても俺のせいにするなよ、

「マジかorzじゃあつかえない能力の可能性もあんのかよ」

・3つ目は妖怪化だな、種族は無くて特徴も一切無い、

「んだとゴルアツ！じゃあ人外になっただけで意味ねえじゃねえか」

・だがお前は不老不死だからな、生きていればそれだけで強くなれるからたとえ能力が弱くても最強にはなれるだろ、

「なま言つてすみませんでしたm(_ _)m」

・以上だな、身体能力は妖怪化の影響で全体的に上がっているから注意しろ、

「神さまマジ神さまだった。これからあんたのこと信仰してやんよ！」

「なおこの手紙は読み終わったら爆発します。」

「え、チユドーン！あの駄神がつ！今度会ったらぶち殺す！！！」

「あの空間」

”（ブルツ）うおっ！いきなりなんなんだ！まあいい、もうやる」と終わつたしゲームでもすつか”

「再び主人公」

「ん、せつかく別の世界に来たんだし名前を変えよっと、何がいっかな？」

「厨二臭い名前がでそうだな」

「うっさい作者！黙っとけ！」

「（・）（・）」

「ん、あつ！じゃあ千夜>せんやくな！」

「あつそう）（・）（y）」

「理由とか聞けよ！」

「どつせ適當だろ？」

「まあそうだけどなっ！」

「聞くだけ無駄だな」

「それでも聞けよっ！お前作者だろ！」

「ぶっちゃければ名前考えたの俺だし」

「それは言っちゃいけない約束ー！！！」

「ここで俺がルールだっ！」

「ダメだこいつorz」

「つつつことでまた次回」

「ぐたぐたじゃねえかっ！」

やせいのライオンがあらわれた！(前書き)

連投はしばらくしたらなくなります

やせいのライオンがあらわれた！

・引き続きほかの人がでないときは作者が登場します・

「いらねえよ！」

・だれもお前の独り言など聞きたくないんじゃないっ！・

「知ってるよっ！」

・つつことで引き続き作者だ・

「千夜です」

・で？・

「ん？」

・これからどうすんの？・

「あー！結局ここはどこなんだよっ！」

・神もてきとーに落としたりしいからな・

「本当にあの駄神覚えてるよっ！」

・人の気配がまったく無いな・

「どうすんだよ、俺サバイバルなんてしたことねーぞ」

・とりあえず能力の確認すれば？・

「おおっ！忘れてた！」

・まあ小説の題名からだいたいわかんと思うけどね・

「だから言っなー！！！」

・あっはっはー、ヤっちゃったZ E ・

「もうやだこの作者orz」

・強く生きるんだー（棒読み）で？能力は？・

「（は〜）えーっと、どうすればいいんだっけ？」

・んなもんできとーてきとー、東方の世界に行ったことなんて無い
んだからわかるわけ無いじゃん・

「それ言ったら全てのSSが終わっちまうわっ！」

・だって事実だしw・

「謝れっ！全ての作者さんに謝れっ！むしろ生まれてきたことを謝
れ！！！」

・（　　）y・

「うわこいつ殺してえ」

- 話がずれにずれてるっ! -

「... ああはいはい能力ね」

- ... 忘れてたな? -

「... さーと、座禅から始めるか」

- (逃げたな) -

↳1時間後↳

「() | () . . . z z z z z z」

- 寝んなっ! -

↳さらに1時間後↳

「いやっ! はあっ!」

- ... 何やってんの? -

「... 太極拳?」

- 知ってんの? -

「知らないよ?」

- じゃあ何やってんだよ! -

「・・・さあ？」

・こいつの設定バカなの忘れてたorz・

「設定とか言っとなっ！」

↳さらにさらに1時間後↳

・飽きた・

「ほあっ！ひあっ！ふえ？」

・だから見てんの飽きた・

「・・・じゃあ帰れよ」

・だが断るっ！・

「は〜」

・つじことだ・

「ん？」

・俺の権限で猛獣襲撃イベントが発動っ！・

「はあっ！..？」

・これでピンチのときに能力が発動するっ！・・・予定だから・

「予定かよっ！」

- 予定は未定です -

「いやいやそれで能力が弱かったらどうするんだよ！」

- 一人目の主人公死亡、はい次の主人公 -

「鬼っ！悪魔っ！」

- ありがとう、最高の褒め言葉だ -

「マジかつ！それより逃げねえt」かさっ「え”っ

「グルルル」

「.....!!!(Bダツシユ)」

「ガオーツ!!！」

「なんで日本？にライオンがいるんだよっ!!！」

- 日本だよー -

「じゃあなんているんだよっ!!！」

- よく見てみるっ!! -

「んな余裕ねえっ!!！」

「……可愛いだろ？」

「知るかつ！俺には死神にしか見れねえよっ！」

「まあいいがな、あれはライオンではなく妖怪だ。」

「動物ですらなかった！」

「まあ妖怪だから死にくいががんばれよ。」

「ちくしょー！！！」

「はーっはっはっはー！！」

「作者いつか絶対殺してやるっ！」

「殺れるもんなら殺ってみそw」

「うわー！！とりあえずこのライオンもどきをどっにかしないとっ！！！」

千夜の願いがつつじたのか、走っている先にそこそこ大きい川がある

「うおっ！ラッキー！もどきとはいえしょせん猫科っ！ならば水の中にはこないだろっ！！！」

「……ただし現実是非常だった。」

「変なモノローグつけんなっ！それと漢字ちがっ！」

「これでいいんだよw」

「まあいいがなっ！ダァイブー！！」

「バツシャーン」

「ふう、これでだいじょ、バツシャーン、なにっ！？」

「グルルル」

「ギャー！まだ追ってくるー！！」

「ガァァァァァ！！」

「うわっ！食われー、ピキーン、閃いたっ！！」

”水を司る程度の能力”

「はあっ！ー！！」

「うぎゃうっ！！」

「はっはっはー！我が世の春がキターー！！」

千夜は襲いかかってきたライオンもどきを水ポケーンのハイドポ
ンプのように水をはきだして撃退した。

「いやー、よかったよかった。小説始めて4話目で完結になるとこ
だったよw」

「お前のせいだ！ しぶ苦労したぞクルアツ！！」

「いやー、いいじゃんwチート能力くれてやったんだしw」

「まあな」

「まあまだ使い始めたばかりだから水が無いとつかえないけどね」

「え” じゃあ川が無かったら俺死んでたのか！！」

「そついうことw」

「笑いごとじゃねー！！」

「結果がよければすべてよしっ！！」

「よくないわボケーー！！」

「つづつことでまた次回」

「まてやゴルアツ！！」

やせいのライオンがあらわれた！(後書き)

俺やりたいほうだいw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2543y/>

東方洪水域

2011年11月6日02時22分発行